

一町田村公民館圖書

購入
贈与
記帳年月日 昭和26年8月20日

一般部 176 號

通番號

號

稿
本
定
彙
上
人
記

宮地信義著

稿定
本定
輝上人記



緒言

私が郷土研究の一端として聖僧定舜上人の事跡について調査をはじめたのは昭和七年初春であつた。

封建時代に尾北から出た名僧は、いくたりも數へる事が出来よう。然し上人程強く私の心の動かされた方は未だない。即ち崇高な人格の持主であり、清淨な心を持つて終始一貫せられた聖僧である矣は、他には極めて稀なところであるからである。

尾張丹羽郡尾崎村へ現在古和野町尾崎への共同墓地の一隅に、經卷狀の名号石一基、楠風沐雨六十有餘年、あまりにもわびしい存在である。然もこれが上人の墓石であり、而も碑面の南無阿弥陀佛・前大僧都定舜上人の文字とそ辱くも、淨土門主・華頂宮第六世尊超法親王の御誂筆である事を誰か認めるであらう。

然も更に此の墓石とそ上人の流謫地、天草島の上人の門人達が海陸三百余里、三年餘の歳月を費して、わざわざ恩師のために送り來つた、うるはしい師弟の愛情の結晶である事を誰が知つてゐるであらうか。私はかくの如き偉大な聖僧の事跡が、あまりにも埋もれ盡してゐるの

を残念に思つて、一通り資料の調査完了をまつて、昭和七年九月七日
知古屋中央放送局から「流人定舜大僧都の話」と題して、講演放送を
試みた。然しそれだけではまだく足らないので、出来る限りの資料
を蒐集して、一書冊となして、辱知各位へお頒ちするに決した。しか
しか、る擧は無論、當郷土の後輩として私共の当然の責務であると考
へてゐるからである。

然し上人の研究はまだく幾多残された問題があらう。私は更に他日
を期して、充分に纏めたい存念から、後日追加発表の機會のために稿
本として茲に編著する事にしたものである。

此の稿本が郷土資料として何等か貢献する所があつたら、私の最も喜
ばしい事である。

昭和七年九月

編者識

定舜上人記 目次

定舜上人字真

一 上人の誕生と門出

二 修業時代

三 天草配流

四 天草島の上人

五 上人の性行

一 孝養

二 伊勢大廟の信仰

六 上人の末裔

七 上人の遺物

合 終

二 頁

五 頁

八 頁

一 二 頁

六 三 頁

六 八 頁

七 一 頁

附
定舜上人年表。